

腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の発生について

1 概要

7月14日、浜田市内の医療機関から浜田保健所に腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の届出がありました。

現在、浜田保健所が患者及び接触者について健康調査並びに行動調査を実施しています。

2 患者

浜田市在住 80歳代 女性

症状：腹痛、血便、溶血性貧血、急性腎不全、溶血性尿毒症症候群（HUS）、脳症

経過：7月 4日 腹痛、血便、嘔吐

5日 A医療機関を受診

B医療機関を受診後、入院

14日 検査結果が判明し、B医療機関から浜田保健所へ

腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者の届出

現在、患者は入院しています。

溶血性尿毒症症候群（HUS）

腸管出血性大腸菌感染の重症合併症の一つであり、子どもと高齢者に起こりやすい。

3 対応状況

- ・患者及び接触者の健康調査（検便等）と行動調査等
- ・手洗いなど、二次感染予防の指導
- ・家庭のトイレ等の消毒指導

【県民の皆様へ】

○各家庭及び食品調理施設においては、次の事項に注意して下さい。

- (1) 手洗いの励行：感染を防ぐためには、手洗いが最も大切です。トイレの後や調理前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- (2) 食肉の十分な加熱：家庭において、食肉やレバー等の内臓は中心部まで、75℃1分間以上、十分に加熱して食べましょう。飲食店での牛生レバーの提供は禁止されています。
- (3) 調理器具の使い分け：焼肉をするときは、生肉用の箸と取り箸を使い分けましょう。
- (4) 調理後の注意：調理した食品はすぐ食べるようにし、室温で長時間放置しないようにしましょう。

○腸管出血性大腸菌に感染した場合、重症化させないことが大切です。腹痛、下痢、血便等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

【参考】県内の腸管出血性大腸菌感染症患者及び無症状病原体保有者の発生状況

発生年	血清型			
	O157	O26	その他	合計
2021年	6(2)	0	7(6)	13(8)
2022年	18(7)	1	1	20(7)
2023年	74(10)	1	5(3)	80(13)
2024年	13(5)	1(1)	2	16(6)
2025年	3*(1)	0	1	4*(1)

*本件の1名を含みます。()は無症状病原体保有者を再掲

プライバシーを尊重した対応をお願いします。